

ソロモンの
聖徒伝 117

「よろこび ささげ
主にみたされよう」

列王記第一 8章

ソロモンによる神殿奉獻

アウトライン

0. イントロダクション

I. 神殿建設の準備 5章

II. 神殿建設 6章

III. 宮殿建設 神殿の装飾 7章

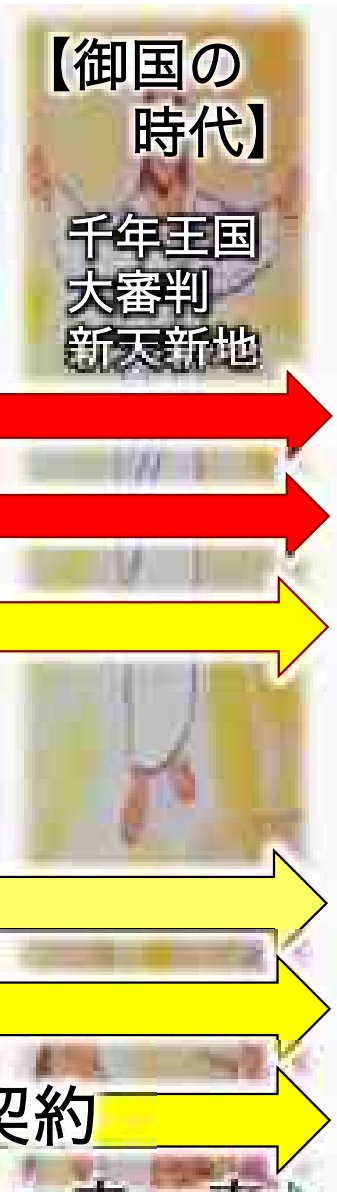
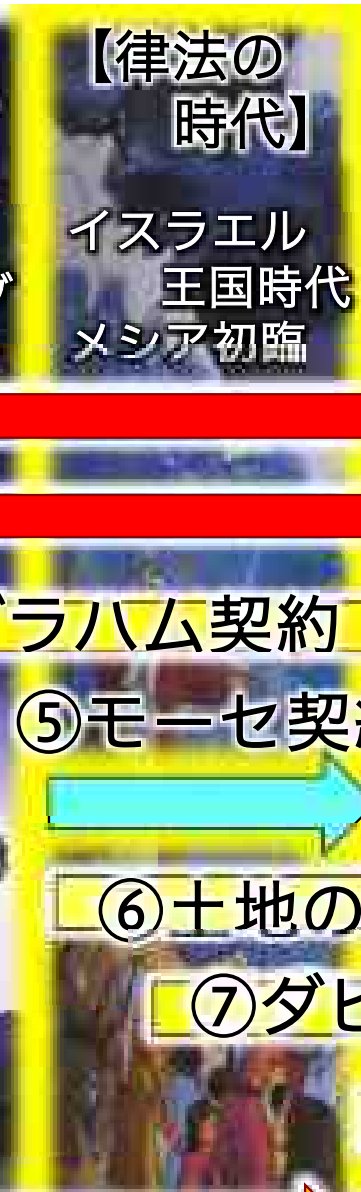
IV. まとめと適用

イスラエルの祭りと神殿奉獻

喜びささげ、主に満たされよう



オリーブ山のアネモネ



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

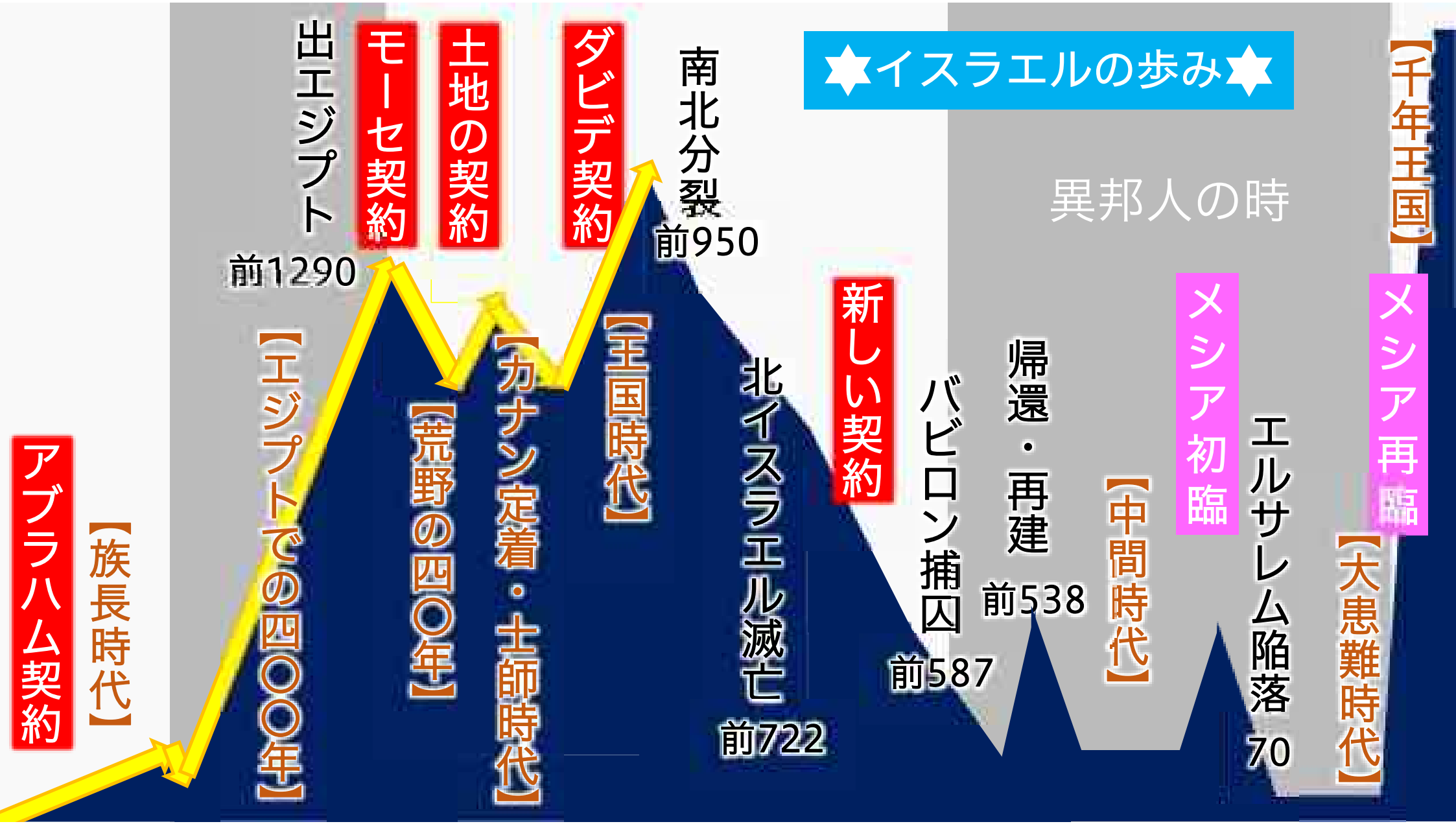
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ	
	2〜13章	預言者エリシャ		ホセア	
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王

即位	1章	アドニヤの謀反 ナタンの忠告 動いたダビデ ソロモンの即位
基盤固め	2章	ダビデの遺言・死 アドニヤの陰謀・死 ヨアブの死 シムイの処刑
知恵	3章	ギブオンでのいけにえ 神の応答 ソロモンの願い ソロモンの裁き
繁栄	4章	ソロモンの政権 行政区 王国の繁栄 ソロモンの知恵
神殿建設	5～8章	職人、労働者 神殿の構造 祭具の構造 神殿の完成 神殿奉獻
名声	9～10章	ソロモンへの神の約束 建設事業 その他の業績 シェバの女王 栄華
背教と死	11章	ソロモンの背教 神の裁き 外的の出現 内的の台頭 ソロモンの死

イスラエルの王の系譜

サウル～ダビデ～ソロモン

- 最初の王**サウル**は、主に背き、王権を剥奪され、非業の死を遂げた。
- **サウル**亡き後、王となった**ダビデ**は、戦いを重ね、周辺国を平定。**エルサレム**を都とし、**神殿**の設計図を記し、建材を準備した。
- 年若き王**ソロモン**は、神に、民を治めるための知恵を願った。御心に適った願いに、神は、富と誉れをも加えて与えられた。
- イスラエルは繁栄を極め、**ソロモン**の名声は諸国に鳴り響いた。即位から4年目、ソロモンは**神殿建設**を着工。7年を経て完成した。

Ⅰ. 神殿奉獻

Ⅰ 列王記8章1～13節



神殿の再現図

【契約の箱】 | 列王記8:1

それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムのソロモン王のもとに召集した。ダビデの町シオンから **【主】の契約の箱***を運び上げるためであった。

*最も重要な祭具。箱の贖いの蓋の上に
主の栄光が宿られた。

■全イスラエルが招集。
いよいよ神殿奉獻へ。



【秋の祭りの頃に】 | 列王記8:2~4

イスラエルのすべての人々は、**エタニムの月**、すなわち**第七の新月の祭り***にソロモン王のもとに集まった。

イスラエルの長老全員が到着すると、祭司たちは箱を担ぎ、【主】の箱と、会見の天幕と、天幕にあったすべての聖なる用具を運び上げた。これらの物を祭司たちとレビ人たちが運び上げた。



*秋の祭りの始まり、新月の日の**ラッパの祭り**

■ 神殿奉獻は、乾期の後、**秋の祭り**の始め頃。

➡ 神殿完成(第8月)から11ヶ月後。

一年繰り下げてまで、この時期に合わせた!!

【ささげもの】 Ⅰ列王記8:5

ソロモン王と、王のところに集まったイスラエルの全会衆は、ともに箱の前に行き、羊や牛をいけにえとして献げた。その数はあまりにも多く、数えることも調べることもできなかった。

■ かつてない数の羊と牛がささげられた。



【契約の箱】 | 列王記8:6~8

祭司たちは、【主】の契約の箱を、定められた場所、すなわち神殿の内殿である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。ケルビムは、箱の一定の場所の上に翼を広げるのである。こうしてケルビムは箱とその担ぎ棒を上からおおった。

その担ぎ棒は長かった(9m以上?)ので、棒の先が内殿の前の聖所からは見えていたが、外からは見えなかった。それは今日までそこにある。

- 神の栄光の宿る箱に触れれば死んでしまう。
- 契約の箱に決して触れないよう慎重を期して、担ぎ棒も長いものが用いられたのだろう。



【箱の中身】 Ⅰ列王記8:9

箱の中には、**二枚の石の板***のほかには何も入っていなかった。これは、イスラエルの子らがエジプトの地から出て来たとき、【主】が彼らと契約を結ばれた際に、モーセがホレブでそこに納めたものである。



*十戒を刻んだ石の板

■あとの二点は、ペリシテに強奪された際に喪失したか？

- ・アーモンドの花が咲いたアロンの杖
- ・マナのに入った壺



【120人の祭司の奏楽隊】 II 歴代誌 5:13

ラッパを吹き鳴らす者たち、歌い手たちが、まるで一人のように一致して歌声を響かせ、【主】を賛美し、ほめたたえた。

そして、ラッパとシンバルと様々な楽器を奏でて声をあげ、「主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と【主】に向かって賛美した。

【主の栄光】 | 列王記8:10~11

祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が【主】の宮に満ちた。
祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。
【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。



【主の約束】 | 列王記8:12~13

そのとき、ソロモンは言った。「【主】は、黒雲の中に住む*、と言われました。私は、あなたの御住まいである家を、確かに建てました。御座がとこしえに据えられる場所を。」

*主が直接ソロモンに語られていた?!

■雲は、神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現。

→モーセと民を、雲の柱が導いた。

■ソロモンが、主の命令通り神殿を築いたゆえに、神の栄光が神殿に満ち満ちた。



【全会衆の祝福】 | 列王記8:14~16

それから王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は起立していた。

彼は言った。「イスラエルの神、【主】がほめたたえられますように。主は御口をもって私の父ダビデに語り、御手をもってこれを成し遂げて、こう言われた。

『わたしの民イスラエルをエジプトから導き出した日からこのかた、わたしは、わたしの名を置く家を建てるために、イスラエルの全部族のうちどの町も選ばなかった。わたしはダビデを選び、わたしの民イスラエルの上に立てた。』



【主のダビデへの命令】 | 列王記8:17~19

それで私の父ダビデの心にはいつも、イスラエルの神、【主】の御名のために家を建てたいという思いがあった。ところが【主】は、私の父ダビデにこう言われた。

『あなたの心にはいつも、わたしの名のために家を建てたいという思いがあった。その思いがあなたの心にあったことは、良いことである。

しかし、あなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から生まれ出るあなたの子が、わたしの名のために家を建てるのだ。』



契約の箱の前で踊るダビデ

【主の約束と契約に従って】 | 列王記8:20

【主】はお告げになった約束を果たされたので、私は【主】の約束どおりに父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に就いた。そしてイスラエルの神、【主】の御名のためにこの家を建て、【主】の契約が納められている箱のために、そこに場所を設けた。その契約は、主が私たちの先祖をエジプトの地から導き出されたときに、彼らと結ばれたものである。」

- ソロモンは、**ダビデ契約**の通りに王座に就き、**モーセ契約**の象徴・主が臨在される**契約の箱**を神殿に運び入れた。





II. ソロモンの願い

— I 列王記6章22～53節

【ソロモンの祈り】 | 列王記8:22～23

ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、【主】の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、こう言った。

II 歴代6:13～14

ソロモンは、長さ五キュビト(2.2m)、幅五キュビト、高さ三キュビト(1.3m)の青銅の足台を作って庭の中央に据えていたので、その上に立った。そして**イスラエルの全会衆の前でひざまずき**、天に向かって両手を伸べ広げて、こう言った。

民を代表して
とりなし祈る
ソロモン



【契約の神を讃える】 | 列王記8:23～24

「イスラエルの神、【主】よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、**契約と恵み***を守られる方です。

あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。」

*ヘセッド …契約に基づく恵み。誠実、善、愛。

■主は民と結んだ**契約**を絶対に守られる方である。

私たちの永遠の救いの確かさは、主のご性質にある。



【主の約束に訴える】 | 列王記8:25~26

そこで今、イスラエルの神、【主】よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。『あなたがわたしの前に歩んだように、**あなたの子孫**がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』と言われたことを。今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。

- ①ダビデ王からの系譜はメシアまで守られる。
- ②子孫の王たちは、主に従うならば守られる。

あくまで神の
約束に訴えていく
ソロモン

【主への嘆願】 | 列王記8:27~28

それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、【主】よ。あなたのしもべが、今日、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。

■主が住まわれるとも言われる神殿。しかし、天地を造られた神が、小さな箱に収まるはずもない。

→神を自分の箱庭に閉じ込めようとしていないか。

→噛みしめるべき、全身全霊をささげる祈りの大切さ。



【第一の願い・祈りが主に】 | 列王記8:29～30

そして、この宮、すなわち『わたしの名をそこに置く』とあなたが言われた**この場所**に、夜も昼も御目を開き、あなたのしもべが**この場所**に向かってささげる祈りを聞いてください。

あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、**この場所**に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、**あなたの御住まいの場所、天**においてこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。

■ **神殿**は、**天**にいます神への窓口のようなもの。

→ **神殿**での祈りを 主が**天**で聞かれるように。



【第2の願い・正しい裁き】 | 列王記8:31~32

ある人が隣人に罪を犯して、**のろいの誓い***を立てるよう求められ、この宮の中にある、あなたの祭壇の前に来て誓うなら、あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたちにさばきを行って、悪い者にはその生き方への報いとしてその頭上に悪を下し、正しい者にはその正しさにしたがって義をもって報いてください。

*神の裁きを求め、神の前で誓い、証言すること。

■正しい訴えには**神の義**の報いが、

悪しき訴えには**神の悪**の報いが下されるように。

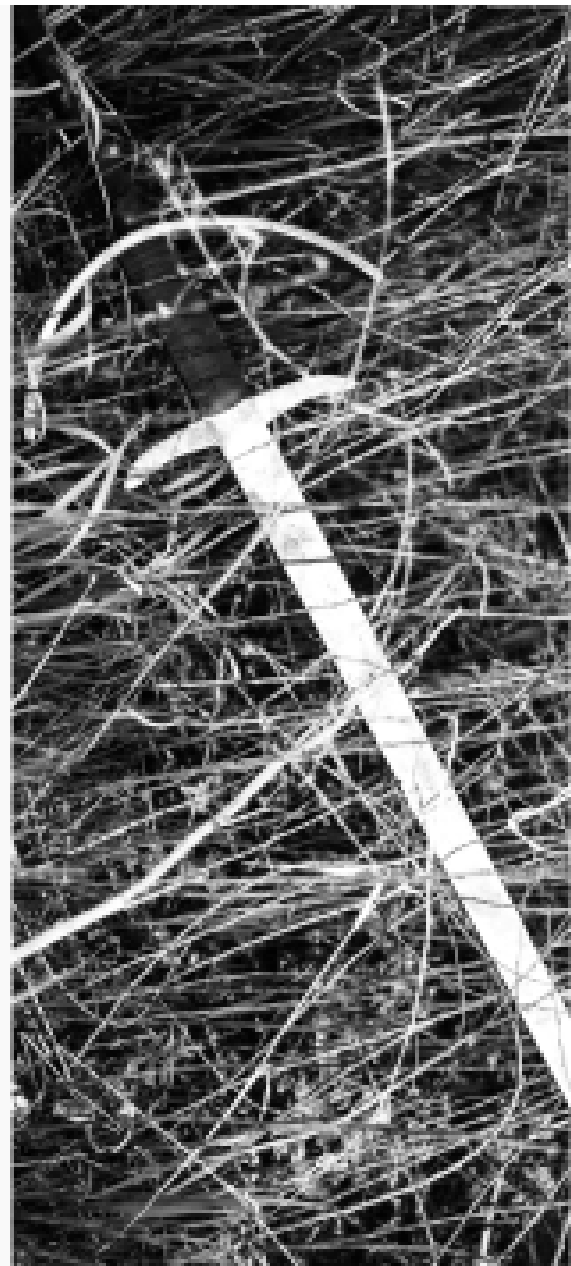


【第3の願い・敗戦と回復】 | 列王記8:33～34

あなたの民イスラエルが、あなたの前に罪ある者となつて敵に打ち負かされた*とき、彼らがあなたに立ち返り、御名をほめたたえ、この宮であなたに祈り願うなら、あなたご自身が天でこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの先祖にお与えになった地に、彼らを帰らせてください。

*イスラエルの敗退の理由は、常に不信仰。

■不信仰ゆえに敵に負け、捕虜とされた場合、悔い改めて主に祈るなら、解放されるように。



【第4の願い・干ばつと回復】 | 列王記8:35～39

彼らがあなたの前に罪ある者となって、天が閉ざされ雨が降らなくなるとき*、彼らがこの場所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたが苦しめたことによって彼らとその罪から立ち返るなら、あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのしもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦してください。彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、あなたの民に相続地としてお与えになったあなたの地に雨を降らせてください。

*干ばつは、民の背きへの罰として度々下される。



【第5の願い・他の災いと回復】 | 列王記8:37~40

この地に飢饉が起こり、疫病や立ち枯れや黒穂病、いなごやその若虫が発生したときでも、敵がこの地の町々を攻め囲んだときでも、どのようなわざわい、どのような病気であっても、だれでもあなたの民イスラエルが、それぞれ自分の心の痛みを知って、この宮に向かって両手を伸べ広げて祈るなら、どのような祈り、どのような願いであっても、あなたご自身が、御座が据えられた場所である天で聞いて、赦し、また、かなえてください。

- 神の裁きとして下されるどんな災害からも、民が悔い改めて、主に祈れば赦されるように。



イスラエルの
残れる者の
重要さ

【第5の願い・他の災いと回復】 | 列王記8:39~40

一人ひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。あなたはその心をご存じです。あなただけが、すべての人の子の心をご存じだからです。

そうして、あなたが私たちの先祖にお与えになった大地の上で彼らが生き続ける間、いつもあなたを恐れるようにしてください。

■ 主の目に正しい生き方とは、主を恐れ、日々打ち砕かれつつ、悔い改め、へりくだって歩むこと。

➡ 主は、民一人一人をいつも目にとめておられる。



【第6の願い・異邦人の信仰】 | 列王記8:41~43

同様に、あなたの民**イスラエルの者でない異国人**についても、その人があなたの御名のゆえに、遠方の地から来て、彼らが、あなたの大いなる御名と力強い御手と伸ばされた御腕について聞き、やって来てこの宮に向かって祈るなら、あなたご自身が、あなたの御座が据えられた場所である天でこれを聞き、**その異国人**があなたに向かって願うことをすべて、かなえてください。そうすれば、**地上のあらゆる民**が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れるようになり、私が建てたこの宮で御名が呼び求められなければならないことを知るでしょう。



すべての民が
神を恐れ、主が讃
えられるように

【第7の願い・戦いの勝利】 | 列王記8:44～45

あなたの民が敵との戦いのために出て行くとき、遣わされる道で*、あなたがお選びになった都、私が御名のために建てた宮に向かって【主】に祈るなら、天で彼らの祈りと願いを聞いて、彼らの言い分を聞き入れてやってください。

■主が命じられ、主が遣わされた戦い*において、主に祈るなら必ず勝利がもたらされる。



【第8の願い・捕囚からの回復】 | 列王記8:46～

罪に陥らない人は一人もいません。ですから、彼らがあなたの前に罪ある者となったために、あなたが怒って彼らを**敵に渡し**、彼らが、遠くであれ近くであれ敵国に**捕虜**として捕らわれて行き、捕らわれて行った地で我に返り、その**捕囚**の地であなたに立ち返ってあわれみを乞い、『私たちは罪ある者です。不義をなし、悪を行いました』と言い、捕らわれて行った敵国で、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都、私が御名のために建てたこの宮に向かって、あなたに祈るなら、

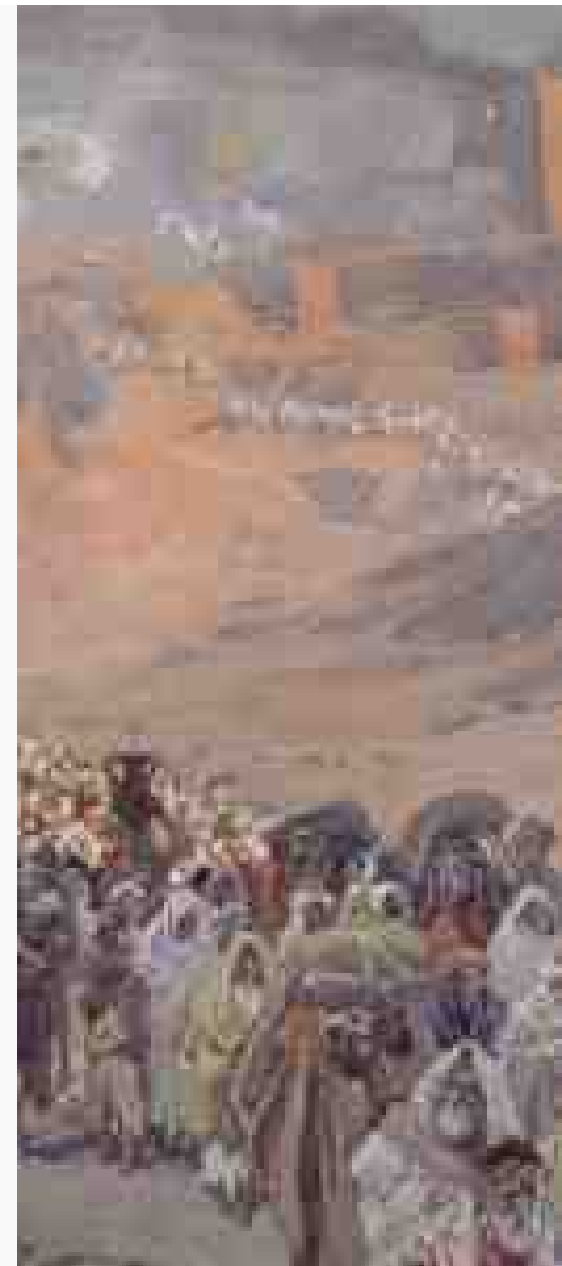


【第8の願い・捕囚からの回復】 | 列王記8:49~51

あなたの御座が据えられた場所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて、あなたの前に罪ある者となったあなたの民を赦し、あなたに背いた、彼らのすべての背きを赦し、彼らを捕らえて行った者たちの前で彼らをあわれみ、その者たちがあなたの民をあわれむようにしてください。

彼らはあなたの民であり、あなたがエジプトから、鉄の炉の中から導き出された、ご自分のゆずりの民だからです。

- **土地の契約** (申29~30章) で、**捕囚**は予告済み。
ソロモンは律法の予告に基づいて嘆願している。



【第9の願い・再度の嘆願】 | 列王記8:52～53

どうか、あなたのしもべの願いと、あなたの民イスラエルの願いに御目を開き、彼らがあなたを呼び求めるとき、いつもその願いを聞き入れてください。

あなたが彼らを地上のあらゆる民から**選り分けて**、ご自分のものとされたのですから。【神】、主よ。あなたが私たちの先祖をエジプトから導き出されたとき、あなたのしもべモーセを通して**お告げになったとおり**です。」

■再度、**神の選び**と**約束**に訴えかけるソロモン。

祈りの土台は、神の約束の確かさにある。



III. 主へのいけにえと祭り

I 列王記6章54～66節



神殿の再現図

【ソロモンの祝福】 | 列王記8:54~55

こうしてソロモンは、この祈りと願いをことごとく【主】にささげ終えた。彼は、それまでひざまずいて、天に向かって両手を伸べ広げていた【主】の祭壇の前から立ち上がり、まっすぐに立って、イスラエルの全会衆を大声で祝福して言った。

■ ソロモンの願いはすべて、神の約束に基づくもの。
律法を熟知していなければできない祈り。

→ とりなし手に求められる御言葉の正しい理解

■ 全身全霊の神への祈りが先あって、
民への祝福が告げられた。

自分自身を主にささげ
満たされることから
はじめよう



【祝福の礎】 | 列王記8:56～57

「【主】がほめたたえられますように。主は**約束どおり**、ご自分の民イスラエルに安住の地を与えてくださいました。しもべモーセを通してお告げになった**良い約束**はみな、一つも、地に落ちることはありませんでした。私たちの神、【主】が、私たちの先祖とともにいてくださったように、私たちとともにいて、私たちを見放さず、私たちをお見捨てになることがありませんように。

■ 民への祝福の礎もまた、**神の約束・律法**。



【ソロモンの祝福】 | 列王記8:58~59

私たちの心を主に傾けさせ、**私たちが主のすべての道に歩み**、私たちの先祖にお命じになった**命令と掟と定め**を守らせて*くださいますように。

私が【主】の御前で願ったこれらのことばが、**昼も夜も**、私たちの神、【主】のみそば近くにあって、**日常のことにおいても**、しもべの訴えや、御民イスラエルの訴えを正しくかなえてくださいますように*

***主の道を歩むとは、主の命令を守ること。**

■御心に適う祈りは常に、主に確かに聞かれている。

*王の裁きは、主が下される裁きの上にある。



【ささげもの】 | 列王記8:60~62

こうして、ついに地上のあらゆる民が、【主】こそ神であり、ほかに神はいないことを知るに至りますように。

あなたがたは、今日のように、私たちの神、【主】と心を一つにし、主の掟に歩み、主の命令を守らなければならないのです。」

それから、王と、一緒にいたすべてのイスラエル人は、【主】の前にいけにえを献げた。

■イスラエルの真実の使命は、全民族の祭司として、すべての民族を救いに招き入れること。



【ささげもの】 | 列王記8:63～64

ソロモンは【主】へのいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万匹の交わりのいけにえを献げた。こうして、王とすべてのイスラエルの人々は【主】の宮を奉獻した。

その日、王は【主】の宮の前庭の中央部を聖別し、そこで全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を献げた。【主】の前にあった青銅の祭壇は、全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を受け入れるには小さすぎたからである。

■ **モーセの祭壇**では小さすぎた。(2.2m×2.2m)

何百万人もの交わりの祝宴が開かれた!!

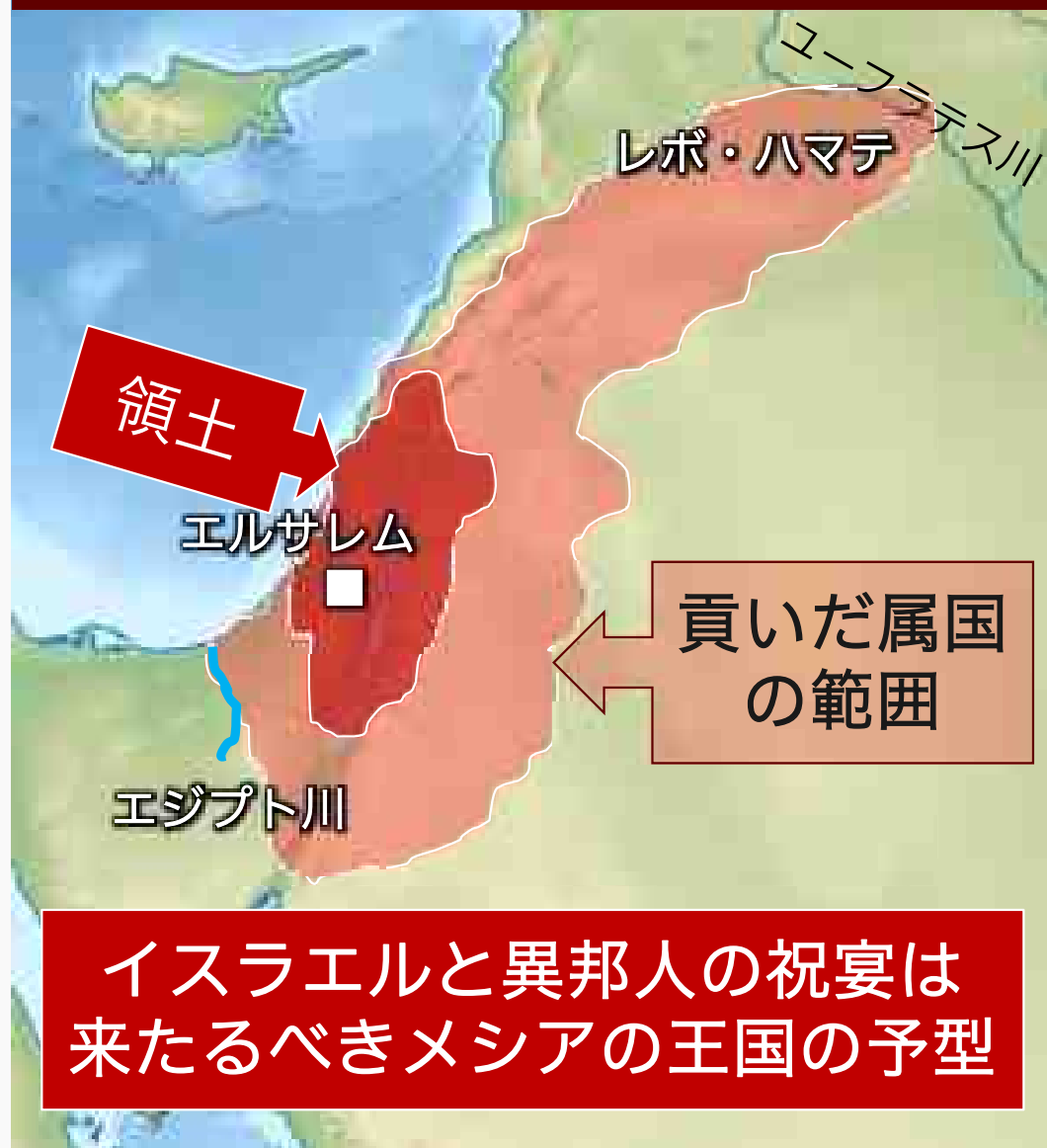


【ささげもの】 | 列王記8:65～66

ソロモンはこのとき、ともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの大会衆と一緒に、七日と七日の十四日間、私たちの神、【主】の前で祭りを行った。

八日目に王は民を帰らせた。民は王に祝福のことばを述べ、【主】がそのしもべダビデと、その民イスラエルに下さったすべての恵みを喜び、心満たされて、彼らの天幕に帰って行った。

ソロモンの勢力図





IV. まとめと適用

イスラエルの祭りと神殿奉獻
喜びささげ、主にみたされよう

イスラエルの祭りとメシアの生涯

	祭りの名称	レビ記	月	日	太陽暦	メシアの生涯	
春の祭り メシアの初臨	①過越の祭り	23:5	第一の月 (アビブ)	14日	3~4月	受難	50日間
	②種なしパンの祭り (除酵祭)	23:6~8	第一の月	15~21日 (7日間)	3~4月	贖罪	
	③初穂の祭り	23:10~14	第一の月	除酵祭中の 安息日翌日	3~4月	復活	
	④五旬節の祭り (ペンテコステ)	23:15~21	第三の月 (シワン)	初穂祭の 50日後	5~6月	聖霊降臨	
夏期	中間期	23:22				世界宣教 (教会時代)	4ヶ月
秋の祭り メシアの再臨	⑤ラッパの祭り	23:24~25	第七の月 (エタニム)	第一日目 (新月の日)	9~10月	携拳 (空中再臨)	14日間
	⑥贖罪の日 (ヨムキプール)	23:27~32	第七の月	10日	9~10月	大艱難時代	
	⑦仮庵の祭り	23:34~43	第七の月	15日	9~10月	千年王国 (再臨)	

【エルサレム神殿奉献とイスラエルの秋の祭り】

- **神殿建設**は、第一月、**過越祭**の頃に始まり、7年目の第八月に終了。
神殿奉献は、11ヶ月後の第七月、**秋の祭り**の開始に合わせられた。
- ソロモンは、**秋の祭りの開始**を告げる**ラッパの祭り**の日に、民と全長老たちを招集し、**神殿奉献**の祝祭の開始を告げた。
- ソロモンの祈りは、主の憐れみに訴え、**民の罪と赦しを乞う**もの。
第七月の10日、大祭司が民を代表して主に贖罪を祈る(**贖罪日**)
- モーセの**律法授与**を覚える**仮庵祭**は七日間続く。
ソロモンは、**神殿奉献**と**律法**を讃え覚え、14日間の大祝宴を開いた。

【神殿奉献と秋の祭りとメシア】

■ 春の祭りは、メシアの**初臨**(受難、贖い、復活)

秋の祭りは、メシアの**再臨**(携拳、大患難時代、千年王国)

■ 真実の唯一の神殿とは、**メシア**である主イエスご自身。

メシアが神殿となる新天新地・天のエルサレムが聖書の最終ゴール。

■ 神殿奉献は、モーセの律法の成就だが、まだ**約束の一部**でしかない。

律法を熟知していたソロモンは、過程に過ぎないと理解していた。

➡ 待ち望むべきは、**ダビデの末に誕生するメシア**に他ならない。

【よろこびささげる、その土台をソロモンに学ぼう】

■ 神殿建設の真の土台は、**神の律法**。

神殿奉獻でソロモンが繰り返し覚え讃えるのは、神の律法。

神の律法を学び、従い守る民は、喜びささげ、満たされた。

■ 神の宮とされたクリスチャンの土台は、**キリストの愛の律法**。

聖書を学び、主を深く知り、日々を主に生き、喜びささげるなら、

私たちは聖霊に満たされ、恵みと平安に満ち溢れていく。

【よろこびささげる礼拝者となるために】

- 主に仕え、人々に仕えたダビデを通して、**異邦人も主に出会った。**
ソロモンと共に神殿奉獻を喜ぶ、多くの神を恐れる**異邦人がいた。**
- まず何より、私自身が、主のみ教えの学びを深め、従い守ろう。
ソロモンが、イスラエルと異邦人のために祈り願ったように、
一人の魂が救われる願いと祈りをもって、日々に遣わされよう。
- 私が今日なすべきことは、内住される**聖霊**が教えてくださる。
沈黙し、主の御言葉に心傾ける時をもって、一日を始めよう。
私がなすべきどんな奉仕があるだろう？ ヒントは必ず身近にある。

【悔い改め、罪の告白とゆるしがもたらす信仰の成長】

- 示されたことは、必ず取り組むこと。主に従い歩む限り、成功も失敗も含めて、主が、すべて益として用いてくださる。
- 見えないことを信じるのが信仰。不確かさの中を歩むのが信者。失敗を恐れるな。主はチャレンジを喜んでくださる方だから。
- ソロモンが祈ったように、人は必ず罪をおかす。気づかされた時、悔い改めの早い者ほど、信仰の成長も促される。

■箴言8章12～21節 ■

8:12 知恵であるわたしは賢さを住まいとする。

そこには知識と思慮がある。

8:13 【主】を恐れることは悪を憎むこと。

わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、
ねじれごとを言う口を憎む。

8:14 摂理と知性はわたしのもの。

わたしは英知であり、わたしには力がある。

■箴言8章12～21節 ■

8:15 わたしによって、王たちは治め、君主たちは正義を定める。

8:16 わたしによって、君主たちは支配する。

高貴な人々も、義のすべてのさばき人もそうだ。

8:17 わたしを愛する者を、わたしは愛する。

わたしを熱心に捜す者は、わたしを見出す。

■箴言8章12～21節 ■

8:18 富と誉れはわたしとともにある。朽ちない財宝も義も。

8:19 わたしの果実は黄金よりも、純金よりも良く、
わたしの産物は選り抜きの銀にまさる。

8:20 わたしは義の道を歩む。公正の通り道のただ中を。

8:21 それは、わたしを愛する者に財産を受け継がせ、
彼らの宝庫を満たすためである。

神殿奉獻で よろこびささげ、交わりを楽しむ民を、
主はどんなによろこばれただろう。

主の掟に従い、命令を守ることを主が求められるのは、
私たちが主の恵みを味わい知り、喜びあふれ、満たされるため。

主のみ教えに生き、よろこびささげ、主の恵みに満たされよう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。
よろこびささげ、主に聴(き)き従(したが)う者を、
主は、よろこんでくださいます。
主のみ言葉にますます親しみ、主に仕(つか)える者としてください。
主のみ教えに生きる者として、日々、主の恵みで満たしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」